202303KeMCo

View Report

Campaign Preview　HTML Source　Plain-Text Email　Details

View this email in your browser

Ke
M
Co

季節が一気に春へ進んだかのような、暖かい日が続いています。
KeMCoでは、次回の展覧会「構築される『遺跡』：KeMCo建設で発掘したもの・しなかったもの」の開幕に向けた設営が大詰めです。この写真は配信日の本日、数時間前に撮影したばかりの展示作業風景です。3月6日の開幕を、どうぞお楽しみに。

KeMCoの近況

「KeMCo新春展2023 うさぎの潜む空き地　鏡花のお気に入りたち」が閉幕しました

《水晶の兎》水晶、泉鏡花コレクション、三田メディアセンター（慶應義塾図書館）

「KeMCo新春展2023 うさぎの潜む空き地　特別企画 鏡花のお気に入りたち」は、2月9日（木）をもって好評のうちに閉幕致しました。
多産なことから豊穣のシンボルとされてきたうさぎ。そのおかげか、展示資料もみどころも盛りだくさんの展覧会となりました。ご来場いただいたみなさまには厚くお礼申し上げます。

【開催レポート】トーク・イベント「泉鏡花とたそがれの味Ｉ：鏡花とうさぎと三田の文人たちと」

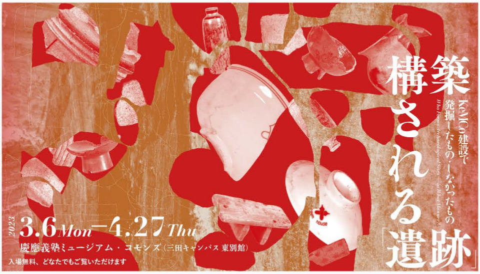
左から鏡花、梶原可吉、小村雪岱、すず夫人
氏遺族所蔵

2月4日（土）に、展覧会関連イベントとして、泉鏡花記念館学芸員 穴倉玉日さんと慶應義塾大学文学部助教 ピーター・バナードさんを登壇者に迎えたトーク・イベント「泉鏡花とたそがれの味Ｉ：鏡花とうさぎと三田の文人たちと」を開催しました。
トークは「そもそも、なぜ慶應義塾に泉鏡花の遺品が？」という話題から始まりますが、それは慶應義塾大学ゆかりの文芸誌『三田文学』の代表的な作家・水上瀧太郎ら、鏡花を取り巻く人々の奔走によるものでした。保管先として鏡花晩年の住居やゆかりのあるお寺など候補はいくつかありましたが、最終的には瀧太郎の親友であり、当時の塾長であった小泉信三を頼り、遺品は慶應義塾に収められることとなりました。
そもそもがこの「作家の遺品を保管し、後世へ伝えていく」という取り組み自体が、この時代としては他に例がなく、先進的であったと穴倉さんは語ります。バナードさんは、鏡花の作品からは崇高でロマン主義的な印象を受けるが、その私生活はうさぎグッズを集めるのが趣味であり、人間関係においてもあらたまった師弟関係とは違って一緒にお酒を飲んで楽しめる…そのような作品と人間性のギャップが鏡花の魅力であったと考えており、穴倉さんもこの魅力的な人柄が没後の遺品保存につながったのではと考えます。

今年は鏡花の没後150年ですが、今回語られた「後に残す仕事」が次の50年後の鏡花ファン、そしてバナードさんのような外国の研究者にまで広がり受け継がれていくことを期待し、トークの結びとしました。
イベントの様子はアーカイヴ配信にて公開中です。以下よりご覧いただけます。

トーク・イベント「泉鏡花とたそがれの味Ⅰ：鏡花とうさぎと三田の文人たちと」

【次回企画展】構築される「遺跡」：KeMCo建設で発掘したもの・しなかったもの


構築される「遺跡」
KeMCo建設で発掘したもの・しなかったもの
Who Forms Archaeological Sites — in What Manner?
2023 3.6 Mon — 4.27 Thu
慶應義塾ミュージアム・コモンズ（三田キャンパス 東別館）
入場無料、どなたでもご覧いただけます

KeMCoでは、3月6日（月）から展覧会「構築される『遺跡』：KeMCo建設で発掘したもの・しなかったもの」を開催致します。

「遺跡」とはなんでしょうか？「遺跡」は人々の活動の痕跡が存在する場所であり、その内容は発掘によって明らかになるものです。慶應義塾ミュージアム・コモンズ（KeMCo）の活動拠点となる三田キャンパス東別館建設に際し、2018年から2019年にかけて慶應義塾が行った発掘では、縄文から江戸時代に渡る多くの記録と遺物を得ました。しかしながら、それはこの地に残る痕跡のすべてではありません。発掘とは痕跡を選択する行為であり、「遺跡」「歴史」は選択により構築されていくのです。展覧会では、選択による成果である発掘された遺物と調査内容を展示するとともに、選択しなかったものにも注目しご紹介していきます。
また、「遺物」をキーワードに現代美術家・山田健二氏と協働したプロジェクトの映像インスタレーションも公開いたします。
本展覧会が、さまざまな角度から「遺跡」「歴史」のあり方を再考する機会となれば幸いです。

構築される「遺跡」：KeMCo建設で発掘したもの・しなかったもの

会期｜2023年3月6日（月）～4月27日（木）（土日祝休館）
特別開館：3月18日（土）、4月22日（土）
臨時休館：3月13日（月）、4月17日（月）
開館時間｜11:00～18:00
会場｜慶應義塾ミュージアム・コモンズ展示室（三田キャンパス東別館）

Feedback

対象｜どなたでもご覧いただけます
費用｜無料（事前予約不要）

展覧会構成｜
Room1　三田二丁目町屋跡遺跡の発掘成果
1. 発掘のあらまし
2. 地形の形成過程を調査する
3. 弥生時代～古墳時代：道が集落をつくる
4. 古代～中世：人とモノが行き交う
5. 近世：垣間見える町屋の暮らし

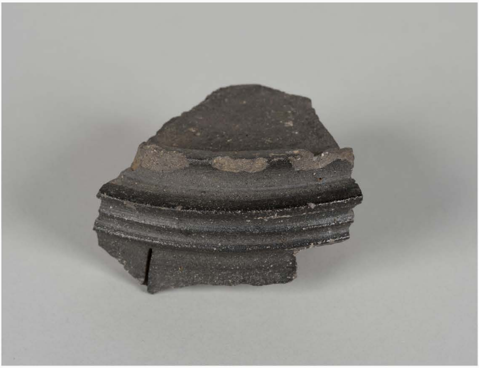
Room2　構築される「遺跡」

6. KeMCoで発掘したもの・しなかったもの
7. 日吉キャンパスで発掘したもの・しなかったもの
8. 三田山上は「遺跡」なのか
9. 三田キャンパスで過去の痕跡を探す

構築される「遺跡」：KeMCo建設で発掘したもの・しなかったもの

展示室より、推しモノ #16

3月6日より開催する「構築される『遺跡』：KeMCo建設で発掘したもの・しなかったもの」より、一作品を紹介します。



円面硯のかけら（奈良時代・８世紀 残存高4.8cm）

「円面硯じゃないですか！」
　KeMCoの発掘現場で、「こんなものが出た」と調査員の方から聞いた時、思わず叫んだのを覚えています。
　律令制に基づく文書行政が確立した奈良時代、硯は国家の支配領域に急速に広がっていきました。とはいえ、その使用の場は限られていたため、国衙や郡家といった地方行政に関わる特別な場所からしか出土しません。長く発掘に携わっていても、古代の硯に巡り合うことは滅多にないのです。
　KeMCoでは、須恵器坏を転用した硯も出土しており、文字を使う人がこの地にいたことは間違いなさそうです。ただ古代の記録からみて、郡家や駅家があったとは考えられません。この地の性格の解明は今後の課題となりますが、私は、当時すでに存在したはずの三田通との関係に注目しています。
　普段何気なく通っている三田通を、千三百年ほど前にこの硯を使った人々も歩いていたと想像してみてください。当時ここにはどんな景色が広がっていたのでしょうか。

安藤 広道（慶應義塾大学文学部 教授）

空き地

　この3月で、2期4年間務めさせていただいたKeMCoの機構長を、定年退職により辞することとなりました。最初の2年間はコロナ禍での開設準備、オープンしてからの2年間は全てが新しいことでしたが、精力的かつクリエイティブな所員の皆さまのお陰で、とても忙しいながらも順調にスタートできたと思います。ミュージアム・コモンズという斬新なコンセプトと、館内にファブラボ（KeMCo StudI/O）をもつ先進的デジタル展開のお陰で、オープン前から海外からも注目を集め、狭いながらも（狭いからこそ）キー・コンセプトの「空き地」をグローバルに発信しています。今年は、学術誌The KeMCo Reviewも創刊し、また昨年の国際シンポジウムをさらに拡張した内容の「KeMCo叢書」vol. 1もまもなく日英両語で刊行予定です。また、ポータルサイトKeio Object Hubによって義塾の文化コレクションを初めて統合的に発信することを実現し、「分散型ミュージアム」のハブとして機能しています。KeMCoは義塾の文化財を広く世界に発信し、一貫校から大学院までの教育に役立ててゆく、機構としての使命を担っています。そのためのご支援を引き続きよろしくお願いいたします。

松田 隆美（KeMCo機構長）

お知らせ

三田でご覧いただける展示

「アート・アーカイヴ資料展XXIV：西脇順三郎没後40年記念展 「フローラの旅」」
1月16日（月）**–3月17日（金）**
主催｜慶應義塾大学アート・センター
会場｜慶應義塾大学アート・スペース

「中津市連携企画展　福澤諭吉が守った風景 – 中津・耶馬渓 –」
2月17日（金）**–3月11日（土）**[予約推奨]
主催｜中津市
会場｜福澤諭吉記念 慶應義塾史展示館（慶應義塾図書館旧館2階）

KeMCo Voiceでは皆様のご意見・ご感想を募集しております

KeMCo Voiceやミュージアム・コモンズへご意見・ご感想がございましたら、以下のアドレスまでお寄せいただければ幸いです。
いただきましたご意見は匿名でご紹介させていただく場合がございます。紹介をご希望でない場合はその旨をお書き添え下さい。

> ご意見・ご感想はこちら

次回の*KeMCo Voice*は*2023*年*4*月に配信予定です。
過去のニュースメールはこちら

Copyright © 2019-2023 慶應義塾ミュージアム・コモンズ　*Keio Museum Commons*

〒108-8345　東京都港区三田2-15-45

Tel:　03-5427-2021　Fax:　03-5427-2022
お問い合わせ